

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-04		技能振興事業						
主管課	市民活動課	関連課							
分野名	勤労者福祉								
目標 (目標値)	技能者表彰や技能職団体への助成を通して技能振興、技能者の労働・生活環境の向上を図る。								
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考				
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)				
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯					
事業の対象者数									
運営資源状況	決算値(千円)	500千円	843千円	844千円					
	(国・県)								
	(負担金等)								
	(一般財源)	500千円	843千円	844千円					
	人員配置数	0.7人	0.7人	0.9人					
	人件費(千円)	6,033千円	6,228千円	8,034千円					
	協働のパートナー								
事務事業運営経費	総事業費(千円)	6,533千円	7,071千円	8,878千円					
	市民1人当りの経費(円)	37円	40円	50円					
	対象者1人当りの経費(円)								
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名	鎌倉市	川崎市	横浜市	藤沢市	厚木市			
	技連協組合数	46組合	65組合	46組合	36組合	24組合			
	技連協組合員数	1,403人	23,000人	51,908人	1,314人	530人			
	市補助金額	300千円	1,700千円	2,540千円	435千円	500千円			
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)		
技能者表彰数	○	目標値	50人	50人	50人	50人			
		実績値	37人	43人					

◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。		
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。		
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止		
技能振興事業	500千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	技能者表彰の実施、技能祭の実施、鎌倉市技能職団体連絡協議会の支援				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	若年技能者の減少による後継者不足から、技能功労表彰における青年表彰の部において該当者がいないという事態となった。			
課題解決のための取組	技能者表彰に対する市民の関心が高まるよう式典内容を工夫した。また、市内小中学校に技能者が出向き、授業やボランティア活動を行うことにより次世代への技能啓発を行った。			
未解決の課題	青年表彰受賞者は該当者がいたものの、若年技能者減少の傾向は変わっていない。			
今後の方針	若年技能者の減少は単年度で解決できる課題ではないことから、引き続き次世代への技能啓発を図っていく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ B	※ □事業完了	課長名 市民活動課課長代理 三上周二

